

Ⅷ小論文

日本海中景小論

〔序〕

我国に日本八景なる名勝あり。
他に名勝と呼称せし風景多々あり。
即ち日本全土山水風月風光明媚。
此れ天地創造の妙技なり。

海中景色も天地ならぬ海地創造の妙技と心得える。
地上で在っても海中で在っても、つまり気圏に於いても水圏に於いても、此れら秀麗奇怪なる造化を生じた主因は日本列島の地球上の位置にあり。

日本列島は環太平洋火山帯に属し、列島及び島嶼とうしょには火山列が数々存在し火山列島と呼ぶに相応しく、溶岩の海中への侵入、海底の隆起は奇岩及び岩石群を生成し、火成岩に含まれる蹉跎砂は黒い砂地を、花崗岩砂は白き砂地を形成し、南方の島々の珊瑚礁は珊瑚砂の砂地を広げたる。

併せて北国北海道の宗谷岬（北緯四十五度三十一分）から南国八重山諸島の与那国島（北緯二十四度二十六分）に至る弓状の曲線に囲まれた列島の姿かたちは優美この上なし。此の緯度差二十度は列島を亜寒帯、温

帯、亜熱帯の氣候帯に分け、南からは暖流が昇り、北からは寒流が降り、海中は多様な植生ならぬ藻生域を生成し、岩と砂の地形と相まつて多様な生物層を成す。更に春夏秋冬季節の変化、潮の干満も、この小列島の海に酷烈・豊穰・貧寒・豪華・怪奇・華麗なる海中景色を出現せしめり。

海中景に在っては大地の風景を眺めるのと違い、水の物理的性質に因り視野は狭く微視的になり、圧縮空気潜水は身体生理上、潜水深度潜水時間を制限せり。然し目にする其の景象に、海中訪問者達は感嘆し見惚れ、宇宙的神秘、地球の営為いとなみを感得せるは必然なり。

【岩の景】

地表あるいは海底に噴出した溶岩は冷やされ液状から固体へ相を変える。凝固した岩石は溶岩の終焉の姿なり。あるものは尾根状に張り出し恰あたがも力強く大地を支える脚の如く、あるものは巨大な岩塊となつて海底に鎮座し、あるものは尖塔として屹立し、自己の変異を語るすべなく沈黙にあり。無機質な岩肌は藻類、軟質珊瑚の温床になり、岩塊の間隙は魚貝類の棲家となり、海中の岩は死して尚、幾多の命を育む。

【砂の景】

地球が内包する強大な力で粉碎された砂は岩石の極限の死骸。浅海に堆積した砂は、精密な製図器具を持つてしても書けそうにない流麗なる曲線紋様を幾重にも描く。斜面の砂は一粒一粒が作用し合い下方へ流出するのを止め、岩同様大地を支える城壁の如く。海底の砂地は地上の荒涼たる砂漠を連想させず、静謐なる海底の地に栄養分を含有し多様な生物を宿す。

【海藻の景】

北海道知床半島から室蘭に至る海域は海藻分布に於いては寒帯（水温0〜15℃）とし褐藻類が、北海道西岸は亜寒帯（水温5〜20℃）に分類し褐藻類が、九州北岸より日本海沿岸、津軽海峡を廻り太平洋沿岸三陸から紀伊半島および四国の東岸西岸は温帯域（水温10〜25℃）に属し、日本海側は褐藻類および緑藻類が、太平洋側は褐藻類および紅藻類が繁殖し海中の森を出現せしめる。沖縄、小笠原亜熱帯域（水温15〜27℃）では緑藻類が生育す。海岸線総延長3千キロの我国は、内湾、島嶼に局地的な藻類域を成す。

【珊瑚礁の景】

動物ならずして動物。板状珊瑚や枝状珊瑚の群集は、植物の如く留まり成長し礁を成す。礁の頂は小魚の樂園となり、礁壁の洞穴に大型魚が潜む。日本の珊瑚礁の多くは海岸部に接した裾礁で水深が浅い礁湖を形成し、白き砂地に大小の珊瑚塊が点在し海草揺らぐ。亜熱帯の海に百花繚乱、絢爛豪華、の景あり。

【光と水の景】

雨、雪、泉、河川、此れ地上の水の景、人に喜憂の詩歌を誘う。海中に在る者あたかも水一分子の如く自ら此の光景獲得できず。海中の水の景、光と共にあり。仰げば海面より日輪の如き白光を照らし、浮遊する微粒子をもつて極光なる光束を演出し、深みに連れ淡青から群青やがて濃紺へと収斂し、水色七変化の妙を見せるなり。

【生物の景】

清明の水に銀鱗を輝かせ魚群が巡る。群青に黄緑線が通る。魚の回遊に一瞬の景あり。岩や砂の魚らは自らの領域に留まり、生物共存均衡の景あり。
日本沿岸は海の生物の宝庫なり。魚以外、貝類、棘皮類、軟体類、哺乳類が多様な景を演出するなり。

【人工物の景】

整然と並び垂下する牡蠣^{かき}ホタテ貝、養殖場に海功人作の風物を奏^{まね}でるなり。

大地沈降思しき城塞^{じやうさく}に類似せる岩相、海深き砂地に散在せし遺物、その沈黙に遙^{いと}か古の景あり。

【結】

日本海中景。此れ、岩、砂、海藻、珊瑚礁、水と光、生物、人工物の協働競演の合作なり。流水あり珊瑚あり、春夏秋冬季節の変に、我が列島の海中に比類なき多様多彩なる景を醸^かすは地球四十六億年の妙技、正に天恵の至るところなり。

但し、此の神秘なる景を採勝せるは、冷暖自知、海中訪問者に限るなり。

〔参考〕東京近郊の海でよく見られるもの

褐藻類…コンブ、ヒジキ、アラメ、ホンダワラ、

モズク、ラッパモク、ワカメ。

紅藻類…チアサクサノリ、テングサ。

緑藻類…アオサ、アオノリ、カサノリ、

サボテングサ。

回遊魚…アジ、イワシ、キビナゴ、ブリ。

根魚…タイ、メバル、カサゴ、オコゼ、

アイナメ、アカハタ、クロソイ、クエ。
砂の魚…ヒラメ、ホウボウ、メゴチ。

2 ダイバー憲章

健康的かつ文化的な気概を以って、
海に親しみ、海を尊び、潜水への関心を高め、
生きとし生けるもののふるさとである豊かで美しい海中の自然を、
次世代に引き継ごう。

- ここでダイバーとは、次の者を言う。
- 呼吸装置を使わず潜水する者また海面を泳ぐ者
- 呼吸装置（スキューバ）を使って潜水する者